



検査者に左右されないう
高精度の画像を再現

乳房超音波検査「ABVS」

乳腺が発達した閉経前の女性の乳がんは、マンモグラフィ（乳房X線検査）では見落とす可能性がある。そこで注目されているのが乳房超音波検査だ。

最新型の「超音波自動プレスト
ポリリウムスキャナー（ABVS）」

（シーメンス社製）は、超音波を当てた乳房の断面のエコー（反射波）を直方体の塊「ポリリウム」として自動的に撮影、保存するため、異常の見逃しと撮影の取りこぼしが少なく、検査後に何度でも見ることができ



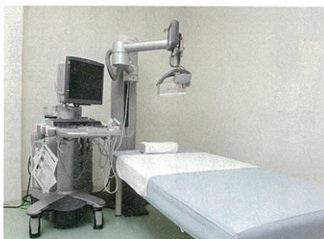
▲スキャンボックスを、乳房の上下左右4方向に当てて撮影。従来の機器より時間短縮も可能に



にしむら たかし
西村 崇 医師
バリューHRビルクリニック
院長
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-14
バリューHRビル
☎ 03-6380-1400

従来の機器では、画像が診断に必要なかどうかを検査中に判断し、異常と思われるものを保存していたため、技師や医師の技量によって検査の精度が左右されることがあった。また検査後の話影で、どの位置に異常があるのかも正確に把握しづらかった。

2010年12月の開院時から同機を導入しているバリューHRビルクリニック院長の西村崇医師は、ABVSの利点をこう話す。
「一定の精度をもった画像を保存、再現できるので、異常の見逃しが防げます。また、他院ともデータを共有できるので、治療後の経過を追うここにも大変優れています」



▶超音波診断装置(左)と専用スキャナー(右)から成る乳房超音波検査システム「ABVS」